
岐阜県立岐阜総合学園高等学校

校長 高橋 幸平

学校住所 岐阜市須賀2-7-25 電話 058-271-5548

1 会議の名称 岐阜県立岐阜総合学園高等学校 評議員会 (第1回)

2 会議の構成 委員 (五十音順)
奥村 正彦 様 (須賀西地区自治会長)
神谷 政人 様 ((社)中部地域づくり協議会)
熊田ますみ 様 (平成医療短期大学教授)
佐藤 昇子 様 (同窓会副会長)
森本 浩一 様 (同窓会副会長、元川崎重工株式会社)

学校側

高橋 幸平 (校長)
小森久美子 (事務係長)
井関 佳代 (教頭)
林 美知尾 (教頭)
岡田 心一 (教務主任)
渡邊 誠 (生徒指導部長)
片桐 一色 (進路指導部長)

3 会議の目的 学校運営について、地域の人々から幅広く意見を求め、地域に開かれた、活力ある学校づくりを推進することを目的とする。

4 会議の開催 平成29年7月12日(水) 15:30~17:30 岐阜総合学園高等学校 校長室
委員5人と学校側7人が出席

5 会議の概要

- (1) 学校評議員委嘱
- (2) 校長挨拶
- (3) 自己紹介
- (4) 学校概要説明
 - ・教務
 - ・生徒指導
 - ・進路指導
- (5) 学校紹介
 - ・学校行事の紹介
 - ・生徒との対談
- (6) 全体会議
 - ①岐阜総合学園高校の生徒に求める力
 - ②魅力ある高等学校を目指して
- (7) お礼の言葉
- (8) 閉会后、ゆうやけコンサート自由見学

6 会議の内容・提言等

[校長あいさつ]

本校は、平成9年に岐阜西工業高校と岐阜第一女子高校の統合によって、岐阜県で初めての総合学科として創立され、総合学科の中心校として発展してきました。生徒は自分の夢が実現するよう、幅広い選択科目の中から自分の意思で科目を選択することができます。「主体的な学び」が本校の特徴です。保護者からは子どもたちの「学校が楽しい」という声が聞こえてきます。これは本校の「主体的な学び」がもたらす物だと感じています。本日は、さらに魅力ある総合学園にするためにご意見を頂きたいと考えています。

[生徒会生徒より]

(1) 発表

- ①学校行事の紹介 (学校行事の紹介と説明)
- ②系列について (所属している系列の説明)
- ③学校生活について (今頑張っていること)

(2) 懇談

- 委員 A : 総合学園のマルチメディア部の活躍は良く新聞でも目にします。これからも努力して活躍して下さい。
- 委員 B : 環境テクノロジー系列の生徒さんが、工業高校を押さえて県ものづくりコンテストで優勝したことにうれしく思います。東海大会でも頑張ってください。
- 委員 C : 生徒が自分の将来について、明確な目標を持っていることに驚きました。社会で活躍できる人であってほしい。そのためには「非認知能力」が大切です。自分の将来の目標を達成するための学習も大切ですが、学校生活すべてで自分の心を耕し、「非認知能力」を高めて社会で活躍してほしいと思います。

[全体会議]

- 委員 A : 一人一人の生徒を育てるのに、それぞれの先生方の指導が繋がって愛情をかけて育てられていると感じました。
先ほどの説明の中で「自己分析の出来ない生徒が増えてきた」とありましたが、能力が低くなってきていると言うことでしょうか。
- 職員 : 能力が低いというわけではありません。自己分析が出来る出来ないは「スキル」ですので、磨かせていかなければならないと感じています。
- 委員 B : P D C Aにおける授業改善サイクルを廻しているようですが、自分が高校生の頃にはなかった考え方だ。しかし、本来P D C Aサイクルはらせん状に進むべきなのに、その場でP D C Aが行われ元に戻ってしまっている場合がある。いかに次のステップに引き上げるかが、課題であろう。
昨年と比べて自転車の交通事故事故件数が増加していると言うことですが、本人側に原因があるのか、もらい事故なのかどちらですか。
- 職員 : 両方あります。単独の自損事故も増えています。
- 委員 B : 遅刻・欠席が大幅に減少しているのは素晴らしい。まず休まない、遅れないのが大前提である。新入社員が最初に遅刻・欠席をするとすぐ目を付けられることになる。
- 校長 : 遅刻欠席の減少に対する取組は、主に生徒指導部が中心となって取り組んでいることではあるが、進路指導主事の「進学・就職をするにあたり、調査書に於いて遅刻・欠席0は大前提である」との指導からはじまった取組である。まさに、学校の各分掌が繋がっているという現れである。
- 委員 C : 家庭学習時間の定着は以前からの課題である。短大でも自ら学ぶという姿勢が付いていない学生が多くなってきている。部活動で頑張っている様子も聞こえてきますが、毎日学習するという習慣に取り組んでほしい。なかでも、課題だけでなく、自ら学ぶべきことを見つけて、取り組む姿勢を身に付けさせてほしい。
看護に関する大学・短大の定員は増加しており、受検生の取り合いとなってきている。併せて、学力の低下も心配である。岐阜総合からの進学者はまじめで、挨拶や学ぶ姿勢といった面で飛び抜けて良いが、多くの学生は自主的に学習をしない。上級学校へ進学する生徒は、学習習慣を身に付けて進学してほしい。
- 委員 D : 素直で扱いやすい生徒は先生にはいいが、ある程度反発してくれる子も後々伸びる。この子はまじめだから大丈夫ではなく、自分で科目選択をして授業を組み立てる総合学科の特徴を行かし、個を伸ばす教育をしてほしい。また、進路指導を中心に生徒を指導すると、学習指導や生徒指導がうまくいくと思います。
- 委員 E : 生徒を大いに鍛えてほしい。人間の発達段階に於いて高校生の時期に鍛えることが大切である。自分の専門だけではなく、人間として付けておきたい力も、先生方間で共通認識を持って鍛えてほしい。また、若い子は自信が無い子が多い。鍛えていただく上で、一人一人の伸び、頑張っている姿を大いに認め、大いに褒めてほしい。生徒はそれを受けて自分の夢に向かって頑張してほしい。自身や意欲に繋がると思います。

[まとめ(校長)]

本校では、職員が「無理でしょう」「出来ないでしょう」とは言わないというのが鉄則で、生徒の夢を育てていくのが目標である。入試制度の改革があり、その影響が本校にも押し寄せてくるであろうが、本校は、総合学科の魅力と成果を中学生に伝えていきたい。本日は、多くの貴重なご意見をありがとうございました。伺った意見を参考に、本校の発展と生徒のために頑張りたいと思います。